

## 令和2年度第2回辰野町総合教育会議議事録

### 【日時】

令和3年1月25日（月）

開会 午前10時00分

閉会 正午12時00分

### 【会場】

辰野町役場第6会議室

### 【出席者】

11名

#### （辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

#### （辰野町教育委員会）

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

教育委員 萩原 多恵子

#### （事務局関係）

総務課長 加藤 恒男

生涯学習課長 西原 功

こども課長補佐

兼学校教育係長 桑原 さゆり

学校教育係 向山 倅生

### 【傍聴者】

18名

## 1. 開会のことば

＜加藤総務課長＞

皆さま、こんにちは。定刻になりましたので、進めてまいりたいと思います。

ご多忙の中、それぞれお集まりいただきましてありがとうございます。また、傍聴の皆さま、それから報道の皆さま、ご苦労様です。ありがとうございます。

本日の会議につきましては、概ね1時間程度を予定しておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。進行につきましては、総務課長の加藤が務めさせていただきます。

それでは、令和2年度第2回辰野町総合教育会議を始めます。

## 2. 町長あいさつ

＜武居町長＞

皆さま、おはようございます。今年度第2回目となります。総合教育会議の関係の皆さま、ご出席、誠にありがとうございます。

前回の会議は、昨年の9月29日に東小学校で行われました。会議に先立ちまして行っております英語あそび、あるいは専科授業、また教科担任制の授業、そういった新しい教育現場を観させていただきまされたけれど、それに先立ちまして、東小学校にあります、あさひ美術館も観させていただきました。丁度10日前になりますが、信濃毎日新聞の方で、皆さまもご覧になられたと思いますが、1ページの大半に当たるところにあさひ美術館を紹介していただきまして、私も非常に嬉しく感じたところでございます。

さて、本日の会議は、当町にとって大きな教育課題の1つであります、川島小学校の今後についてを議題といたします。お約束いたしました町長の考え、私案を報告させていただきます。

また、教育委員の皆さま方からも率直なご意見、ご感想等をお聞かせいただければと思います。

今、コロナ禍の中で、子どもたちの学習環境面にも大きな影響が出ている状況にございます。明るい方向性が見出せる会議になることを願ひまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくどうぞお願い致します。

## 3. 教育長あいさつ

＜宮澤教育長＞

皆さん、こんにちは。教育委員の皆さんには、大変お忙しい中お集まりいただきました。ありがとうございます。

今、町長が申し上げましたとおり、今日は、川島小学校の存続についてということで、町民の関心も高く、大変多くの傍聴の皆さんにお出でいただきました。ありがとうございます。

武居町長が、川島小学校の存廃問題の結論を3年間先送りし、徹底的に挑戦すると表明して、その3年が経とうとしています。この間、社会はコロナ禍に突入り、生活も価値観も大きく変化しつつありますけれど、学校には、コロナ禍であっても日々、元気な歓声が響き、笑顔が満ちあふれております。その子どもたちの学びの環境について、私たち大人は、将来にわたって保障をしていかなければなりません。そのような意味から、学校が果たす役割は大変大きなものがあるとご認識しております。

今日の総合教育会議が、それに向けて、良い協議の場となりますよう期待をしておりますが、先ほど町長からいただきました資料を見ますと、24ページにわたる膨大なものであり、私たちがこの総合教育会議の場で十分に理解するには、やや無理があ

ります。教育委員の皆さん、あるいは事務局の皆さんには、説明をお聞きし、疑問、あるいは質問などを出す程度で時間も来てしまうのではないかと考えております。町長も先ほど述べられましたけれど、今日は私の私案を聞いていただいて、率直な意見を頂戴したいということでございますので、今日の総合教育会議は、一つの方向性を決め出すというものではございません。その部分を理解した上で、よろしくお話ししたいと思います。お世話になります。

#### 4. 協議および意見交換

##### (1) 町立川島小学校の今後について

- ・ 武居町長より別紙資料の内容を説明。

<宮澤教育長>

どこから発言したら良いか、迷っているわけですが、まずは、今の約1時間半に及ぶ町長の話聞いていて、3年間、本当に一人で考えていたんだなと思いました。実は、私が聞いてみたのですが、副町長にも相談を一切していない、町の教育委員会にも総務課にも相談をしていないということです。正に一人でずっと考えてきたんだなと、教育をどうするか考えるということは相当エネルギーを使いますので、そこには感謝したいと思います。

しかし、あり方検討委員会の提言だとか教育委員会の見解等を尊重すると述べられていて、今日も述べられましたけれど、その部分の考えがどうなのかをもう少し聞いてみたいという思いがありますし、なぜ、教育委員会にも相談をいただけなかったのか、そのところも聞いてみたいという思いがございます。

ですが、時間もないので、そのところは置いておきますけれど、いずれにしても、今、社会が大きく変わっていく中では、学校も変えていかなければならないということは誰もが分かっているところであります。一方、(子どもにとっては)将来がかかっているわけですが、その部分は非常に難しいわけで、自分に合った学校をつくるだとか、それから、一人も取り残さない学校をつくっていきたい、それに対する教育委員会の思いは同じなわけです。ただ、あり方検討委員会、それから教育委員会の方で結論付けたとおりにならなかったということは、正直なところ、ちょっと残念であります。

ここには、しっかりと結論が最初にかかれていないのですが、本来ならば21ページの最初に、私は川島小学校を存続させます、という1行があって、町内の学校を川島も含めて、こんな構想にします、というふうになっているのが普通なんだろうなと思いました。

ただ、今回の町長のこの膨大な資料を見ますと、やはり学校のあり方だとか、学校教育のあり方を深く考えているなど、そこは非常にありがたいなと思います。

このキャンパス化という言葉が出てきておりますけれど、私はすんなりと受け入れることができません。課題が非常に大きいだろうなと思います。ですので、2年後にということが書かれていますが、それは無理があると思います。これをやるには、かなりの財政出動が必要になり、その判断が求められてまいります。

キャンパス化にしていきますと、町内の小学校が1つになるということで、県費の先生方の配置は、児童数で割り出された学級数で決まってしまうので、今試算してみましたけれど、約3分の2が減らされてしまいます。その減らされた分を町費で補い、先生方の給料を負担する時に、町全体で何が起こるのかというところが非常に大きいだろうなと思います。

ただ、町長から今、初めて聞いての私の思いですので、まだ詰めていかなければい

けないんだろうなと、キャンパス化については非常にハードルが高いんだろうなと思います。

しかし、全ての子どもたちの学びだとか、個性や特性に寄り添ってということで、24 ページの下に、いくつかのポツがありますけれど、学区は町内 1 学区にしても良いのではないかと書かれております。その部分は、教育委員会としても大事な課題として、これから考えていかなければいけないと思っているところでございます。

#### <根橋教育委員>

今の資料を見させていただきまして、3 点程、質問させていただきたいと思います。

3 年前の総合教育会議で、校舎化、というような表現をされた気がしていますが、校舎化イコールキャンパス化という感じになるのかと思います。このキャンパス化という構想を最終的に決めたのはいつ頃なのかということをお聞きしたいと思います。

そして、もう一つは、この構想を町民の皆さんが一度は目を通すと思うのですが、町民の方のご理解を得るために、どのようにご説明するのかということです。

最後に、辰野町が選ばれる町づくり、という表現をされておりますけれど、逆に、辰野町の住民が不安になるのではないかと思います。そして、令和 5 年度からの開校を目指したいというお話でしたけれど、本当に 5 年からできるのか、その準備期間が 2 年だけで可能なのかという思いがあります。

以上の 3 点をお聞きしたいと思います。

#### <武居町長>

まず、3 年前は、例えば西校舎、東校舎という表現を使わせていただきました。これは、議会の議員の一般質問の中で、キャンパス化という表現はどうか、というご質問がありまして、キャンパスという言葉は、大学や短大、あるいは専門学校が使う言葉だと思ったのですが、キャンパスという表現は、非常に堅くなくて柔らかいというイメージで、先ほども言いましたとおり、各校舎で特色を打ち出すことができれば、可能ではないかと思い、キャンパス化という表現にさせていただきました。

2 点目の町民の皆さんの理解についてですが、私自身、どんな反響、反応があるのか、おそらく実際に全てを受け入れられないだろうなと思います。それだけ、例えば、東小学校、南小学校、川島小学校もそうですが、非常に地域の皆さんに溶け込んでいる小学校ですので、それ自体、まず名前が変わってしまう。ただ、間違っただけは困るのが、選ばれるというシステムにはしたいと思っておりますけれど、これは新しいものを求めなければ、子どもたちは一番近い学校に通える、今まで通り通学できるというように見れると思っておりますので、何とかご理解いただければと思っております。やはり我々ではなくて、子どもたちの立場に立った改革であるべきですので、そこを今後の指針にして話をしていきたいと思っております。

3 点目の選ばれる町づくりに対して、不安になるということですが、この川島小学校の問題が感じさせるのは、先ほども言いましたが、同じ川島地区の中で、ちょっとねじれ現象が起こってしまっているということです。川島小学校を残してもらいたいという方がいれば、統廃合になっても仕方ないではないかと言われ方もいます。その奥には何が原因なのかと思いき、客観的に見た時に、人間って変わること、変化に対しては、非常に臆病になってしまう、かなり神経質になってしまうのかなと感じました。移住定住を進める時も、基本的には、辰野町はこんなに良いところですよ、特に川島はこんなに素晴らしいところですよ、と言いつつも、違う考えを持った方が来てしまうと、ちょっと待てよ、と拒否反応が出てしまうのです。やはり地元の地域を

愛するが故に、地域を守ろうとする行動や言動が現れてしまうのかなと思いました。

私自身、下辰野で生まれてそこに住んで、上辰野に住んで、今は宮木にいます。みんな地域性が違います。ただ根本には、その地域を愛する気持ちが強いのは本当に分かるのですが、裏を返せば、排他性がまだあるということです。そこらへんが非常に大きな問題になってくるのかなと思います。

最後に、令和5年からできるかどうかということですが、先ほど教育長のお話にもありましたとおり、教職員の配置の問題であるとか、人件費とか、財源的な問題等があり、今回はそこを提起できませんでしたので、そういった点も含めて、考えを整理していきたいと思います。

#### <根橋教育委員>

もう1点確認したいことがありまして、川島小学校の将来を考える会という会議を3年間8回程行ってきましたが、その中において、キャンパス化という言葉が全然出なかったわけで、突然今日、出てきました。会議の中でキャンパス化という言葉が、町長さんの頭の中にあっただとするならば、そこでもう少し、こういうことを考えている、ということを説明していただければ、より理解が早かったのではないかと、理解を得られたのではないかと気がしています。

#### <垣内教育委員>

たくさんの資料を読ませていただいて、町長さんがこんなに子どもたちのことを考えてくださっているということは、本当に嬉しく思います。

近況的に、町内から川島小に通う場合は、いろいろなサポートがあったりするのですけれど、川島から西小学校に通う場合は、何もサポートがないということがずっと気になっていました。親とすれば、保育園でできた友達関係だったり、親同士の関係だったりをもそのまま大事にしたいと思うと、みんなと同じ学校に行かせたいという考えになりますので、やはり今のねじれている現象を何とか改善してあげたいと思っております。

あと、9ページのところに、悩み苦しんでいる家庭の救いの受け皿となっている側面がある、とあり、川島小学校が強調されているのですが、元々辰野町に住んでいる子どもたちの中に、やはり学校に行けない、クラスに行けないという悩みを抱えている子どもたちがもうすでにいて、親も本当にどうすれば良いか分からずにいます。元気に笑顔で学校に行ってくれるということが大事な部分なので、今の課題としてそこが気になるので、一緒に考えていただければありがたいと思います。

#### <武居町長>

最後に言われた、学校に行けない子どもたちについて、調査で、ある程度の数は見えると思いますけれど、私は潜在的に、相当の子どもたち、あるいはご家庭が悩み苦しんでいるのではないかと考えております。その中で一つ、先ほど、養老孟司さんのお話をしましたが、とにかく小学生は遊びが趣味である、今の教育の流れに異論を唱えるつもりはないです。小学1年から英語教育をやっていこう、ということは、それはそれで良いでしょうけれど、自然の中へ飛び込んで活動できる場もいっぱいある。ひょっとすると、学校での集団教育については、そういう場面でもできてくるのではないかと考えております。実は、そこに一番期待を持っております。

垣内委員さんの思い、女性、あるいは川島小の関係でいろいろご指摘、ご提案をいただきまして、またいろいろお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

#### < 関教育委員 >

まず、教育長さんもおっしゃられましたけれど、この 24 ページにわたる町長さんの私見については、町の小中学校全体の未来像ですとか、より一層の教育クオリティの向上ですとか、教育予算の投下の方法等々、様々にそういうようなことで考えられて、鳥瞰的、俯瞰的に考えられているということは、非常にありがたいなと、まず感謝を申し上げます。

その未来像は、ちょっと後々ハードルも高そうですので、ちょっと置いておきます。

3 年前の総合教育会議、平成 30 年 3 月 26 日において、町長さんが、3 年後に統廃合の見極めをするのが最善の道だ、とおっしゃられております。今日、ここへ我々は、その答えを聞きにやってきたわけですので、まずはそこをしっかりと精査をしていただくことが大前提かなと思います。

その間に、あらゆる様々な活動が行われたというご報告は立派だなと思いました。ただ、その反面には、地元川島の住民の皆さまの中にも、統廃合やむなし、そういった形でお考えの方も大勢いる、当然町内にもいるわけですので、こういった存続ありきの活動の報告ですとかは、存続を当然望むからやることは当たり前のことでしょうけれど、そういった反対側の意見もしっかり 3 年間の間に耳を傾けたのか、存続ありきですので、耳を塞ぐということがなかったのかをお聞きしたいと思います。

キャンパス化につきましては、細かいことがあって、非常にハードルが高いなというのが第一印象ですけれど、これによっての重大な副作用も生まれてくるというふうに感じました。おそらく、これを町民の皆さん、特に在学児童、生徒の皆さん、それから入学を控えるご家庭の皆さんがこれを見れば、相当、町全体を震撼させる大変重大な発言で、関係のないところまで、大きなマイナスを発生させるのではないかなというのが第一印象でございます。

町長さんがこの 24 ページにわたるものをつくらなければいけなかったということは、かなり川島小学校を存続させるということに無理があるというふうには、私は感じております。これは、おつくりになった町長さんが一番感じているのではないかと思います。私からの意見は以上になります。

#### < 武居町長 >

3 年前に存続させたいということで持ち出したわけでありますので、それ以降、統廃合について、何を考えているんだ、という相当なご意見もいただきました。

やはり思ったのは、実際に川島小学校へ運動会や音楽会に行って、すごくハッとさせられる場面が結構あったということです。

一つには、川島小学校は少人数だから自己表現力が弱い、ということをよく言われていました。これが逆に言うと、先ほども言いました、先入観、固定観念の一つだと思います。実を言うと、実際には、大勢だと一つの授業の中で、1 回か 2 回しか当てられないけれど、しょっちゅう先生から、どう思うの、とか当てられて答えています。つまり自分の考えがあるのです。それを発表させてあげる場面がたくさんあるわけです。

あと、ハッとさせられたのが、運動会などのいろいろな学校行事の中で、例えば、走っていて倒れてしまった子どもをサッと支え上げる子どもたちの姿を見て、ガツンとやられました。自分の小学生時代を思い出した時、友達に手を差し伸べるという人間ではなかったと思います。本当に嫌な人間だったなと思います。常に競争原理に支配されていて、勝つか負けるかだけで、勉強でも運動でも、誰にも負けたくなかったわけです。競争原理の教育の中で自分は育ってしまったのだなと思います。ただ、

それは先ほど言った、切磋琢磨でもあったということです。今は、それとは違う時代に間違いなく、入ってきている。これからどんな苦しい時代が来ても、たくましく生きていけるような優しい心を持った人間教育が川島小で実現できるのではないかと思える、そんな場面が結構見えたということも事実であります。

そういった中で、やはりそうは言っても、統廃合について、財源的な問題があるとか、そういう流れの中で耳を塞いできたのではないのか、というご指摘がありましたけれど、基本的には存続させたいということでスタートしたわけで、非常に自分自身、感情的には嫌な発言も多かったわけです。ただ、聞かないという姿勢は持たなかったです。とにかく、ご意見を伺って、そういう思いでいらっしゃるのかと。ですから、先ほど出ていた不登校の問題、あるいは、これから小学校に上がる時に川島小ではなく西小学校へ行かせたい、などは伏せてはいけな問題だと思います。だから、私も敢えて、不登校問題についてクローズアップしました。どれほど地域で困っている方がいるか、これはやはりプライバシーの問題もありますので、あまり表沙汰にしてはいけないものもありますけれど、基本的には、特に感じていることは表に出して、こういう問題がありますが、どう考えますかと、そこを論じていきたいと思えます。

キャンパス化に関して、副作用があるのではないか、非常にハードルが高いのではないか、というご意見をいただきました。本当におっしゃるとおりだと思います。まずは、先ほども言いましたけれど、役場の職員に全然諮っていないですので、うちの職員はどう考えるのかを聞きたいです。実は、課長補佐以上の管理職とは、今回の私案は申し上げていないのですが、川島小学校に対して、どんな考えを持っているのか、一応懇談をしましたが、今まさしく、子育て真っ最中の職員とのコミュニケーションがまだ取れていないという思いがございますので、今後これも詰めていって、役場の職員との懇談も多くしていきたいと考えております。

関委員に関しましては、非常に深い、時に手厳しいご発言もされますので、それも私は耳を塞がずに聞いていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

<萩原教育委員>

私は、3年前の総合教育会議では教育委員をやっておりませんでしたので、十分に理解できていないところもあると思えますけれど、やはり3年間結論を先に延ばされたということですので、ここの会議の場では結論をおっしゃっていただいて、その後で次の議論に進むべきではないかということをおもっています。

続きまして、キャンパス化構想ということですが、ここの1ページに書いてある内容だけでは、私には理解ができませんでしたので、良いか悪いかの判断もできないので、すみませんが、意見を申し上げることができません。

私は保護者という立場で教育委員をさせていただいておりますので、小学校に2人と保育園に1人、子どもがいるのですが、その保護者の立場から意見を申し上げるとすれば、決して町内の保護者の皆さんの総意ではないということが前提なのですが、突然、この構想という紙面を見て、とても混乱し、動揺しております。昨年からずっと、コロナで世の中が大きく変わっておりまして、学校を取り巻く環境もとても大きく変わっています。新しい生活様式に慣れていかなければいけないということをおもっては分かっておりますけれど、子どもたちの授業ですとか、学校行事が今まで通りに行えていないという現状を、そういうものを目の当たりにする度に、子どもたちの気持ちですとか、先生方のお気持ちを考えると、とても胸が痛んでいます。

こうした状況の中で、東京の移住者の方を呼び込みたいという町長さんのお気持ちも分かるのですが、今のこの状況の中で、この構想を今すぐに議論を始めて、2年後に、こうした構想の中で子どもたちが学ばなければならないのかということとは、

現時点では、私の頭では理解がつかないで、とても戸惑っております。

私の意見は、全ての保護者の皆さんの意見ではないと思いますので、もし議論を始めるのであれば、私と同じように今、辰野町で子育てをしている親御さんと、あと当事者になる子どもたちと、現場で教鞭を執られている先生方、一人一人に意見をお伺いして、理解を得てから議論を始めていただけたら良いかなと思います。

最後ですが、私は、親が不安になると子どもにも伝わると思っておりますので、辰野町に暮らして学んでいる子どもたちが不安になるようなことだけは避けていただいて、慎重に議論を進めていただければと思います。

#### <武居町長>

先ほどもありましたが、この構想は結構マイナスの反響が出てくるのではないかと、心配の声もございました。いろいろなことを考えますと、あまり表には出てきませんが、今回、私が川島小の問題と向き合った時に、子どもたちの問題はどこにあるのか。言葉ですと、子ども中心であるとか、子ども目線とか、いっぱいありますけれど、私から言わせれば、全部大人目線の表現なのです。自分の子どもをどうしていきたいのか、どういう教育をさせたいのか、全部親が決めて、こういう教育をさせると。そのような意思、あるいは考えというものは、もう少し成長した後に出てくるものだと思います。特に小学生の場合には、基本的には親、あるいは学校の先生方の教育方針通りに動いていくのが精一杯ではないのかなと思います。ただ、そこで声が上げられない子どもたちもいるのが事実だと、私は感じております。敢えてカミングアウトしませんが、私の娘が小学校、中学校時代に、大変ないじめに遭って学校に行けなくなったということがありました。私が取った行動は、学校に行け、と声を大にして言ったわけです。ただ、今思うと、怖かったです。あれを強要していたら、娘は自殺していたと思います。子どもの気持ちに寄り添えなかった私は、子どもたちは何を思って生きているのか、そこに私は、一切自分自身の見方を伏せて、それを探るような生き方に変えました。だから、萩原委員さんも子育て真っ最中で、大変な苦勞をされていると思いますが、子どもの心はどこにあるのだろうか、毎日生活しても掴めないということです。私自身は掴めなかったです。かろうじて、死ななくてくれてありがとう、その代わり、生きている間はずっと寄り添ってあげるね、と。良いパパになれたかどうかは分かりませんが、そのように私は感じたわけです。

今日いろいろ言ったのもやはり、本当に苦しんでいる、困っている子どもがいるのも事実ですので、それを受けてくれる川島小学校という存在は、今の段階だと非常に大きいです。ただ、そういった子どもたちに特化してしまうのも確かに問題だ、と言われる方もいるかもしれませんが、先ほどのHSC・敏感な子どもの発生であるとか、コロナで学校にも行けなくなってしまったという時に、これから子どもたちの教えがどうなっていくのかが分からないこの時代に、ひょっとすると、大自然に囲まれた環境で遊ばせて、それで良いのではないかという学校が1校くらいあっても良いのかなと思います。相当な存在価値が生まれてくるのではないかという思いがあります。

本当にいろいろご指摘がありました、存続か廃校か、どちらなのかということを確認にできなかったのは確かにおっしゃるとおりです。先ほどの案にあったとおり、存続前提です。統廃合はなしで進めていきたいということです。ただ、存続か廃校かだけの問題ではないということ、やはり分かってもらいたいのです。町全体を見た時に、ちょっと学校でついていけなくなってしまった子も、ちゃんと受け入れ先はあるということです。それがワンチームになるために、辰野町の教育行政で目指すべき方向ではないのかと思っております。



<山田副町長>

教育委員の皆さんには、本当に様々なご意見をありがとうございました。

今日、町長から私案という形で、こういう発表があったわけですが、わたしが町長の一番近くにいるのですけれど、今まで、この3年間で町長が悩んでいる姿、苦しんでいる姿をしっかりと見てきました。本当に悩んだ末での結論を今日、出したのかなと、ひしひしと感じているところでもあります。特に、この1ヶ月くらい前から、町長も1月25日のこの総合教育会議を大変気にしておりました。今は山に例えると、何合目かな、ということをよくおっしゃっておりました。ただ、その何合目かも、7合目になったと思ったら、これがまた5合目に下がったりと、町長の中で大分悩んだ結論がここに出たのかなと感じたところでもあります。

私も副町長になりまして、これで3年と2ヶ月が過ぎるのですが、この間、教育行政に関しましては、他の市町村に負けないように、本当に町長も力を入れていて、例えば、エアコンの関係やトイレの関係、またIT環境の整備の関係など、この3年間は本当にどんな予算科目にも負けないくらいに、この教育関係に支出をさせていたきてきたということは、すごい印象だなと思っています。

ただ、最後に残る問題は、この川島小学校の存廃問題でありまして、これが今日、この形で出たのですけれど、まだまだ課題多き問題なのかなと更に、再確認させていただいています。今日のモデルのイメージのところに、いくつかのポツがありました。私たち行政としては、このポツが本当にできるのかどうかも、これから検討していかなければいけないし、おそらく検討していくと、ポツが今11個ありましたけれど、これが倍以上、もっとすれば何倍にもなるような課題があるのかなと思っています。ただ、これも、課題的にはできるからと言って、やるわけではなくて、あくまでも、その先には町民の皆さんの理解が必要だなということを感じておりますので、そんな理解が得られるようなことになるのか、真剣に検討していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それと、一つ大切なことは、やはり、委員さんがおっしゃったとおりに、今の子育てをしている世代の親御さんたちの気持ちを大切にしていかなければいけないと感じましたので、一番最初は、そういうところからしっかり聞いていかなければいけないのかなと思ったところでもあります。

町長のこの長い文章の中で、最後のページに、私たちの心に潜む「先入観」「固定観念」であると思う、という文章があり、私なんかは、先入観とか固定観念の塊でありますけれど、自分でこの殻を破れるのか、また職員たちもこの殻を破れるのか、そんなことを思っておりますので、また合わせて、取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 5. 総括

### (1) 町長

本当にありがとうございました。当初、1時間くらいで済む予定が2時間にもなってしまうました。お詫び申し上げます。

本当に申し訳ないくらい、今日は私の一方的な案をご提示させていただきましたけれど、つくづく思うのが、やはり皆さんの考えには、子どもたちのために、あるいは将来の子どもたちのために何ができるのか、という思いがあります。ど真ん中の辰野町と言われておりますけれど、ど真ん中の町から何か素晴らしいものを発信できないかなと感じております。

今になって初めて、近頃、大賑わいになった大阪都構想問題で、本当に信念かけて頑張った議員の皆さんの、否決されてダメになったという気持ちがなんとなく私も分

かった気がしまして、自分で一生懸命考えたのだけれども、これもダメになるということが当然あると思います。それも踏まえて、今日ご提案したつもりでございます。

とにかく、これからも皆さんの率直なお考え等々をお聞かせいただきながら、何とか将来、こんな素晴らしい町ができればという思いだけを持って生きていきたいと思っております。

本当に、今日はありがとうございました。

## (2) 教育長

教育委員の皆さん、今日は本当にありがとうございました。

改めて、人口が減少していく、少子化に向かっていく、という厳しい問題を突きつけられているなど再認識したわけでございます。

3年前に出しました、あり方検討委員会の提言、それを受けての教育委員会の見解と異なった方向になったことは、先ほども述べさせていただきましたが、残念ではありますが、ここから新たな学びの環境について、教育委員会としましても考えていかなければいけないと痛感したところでございます。

様々な案が出されておりますけれども、あくまでも町長の私案ということになっておりますけれども、教育委員会としましても、この中の課題の一つ一つについて、個々について整理をし、そして教育委員会として対応していかなければならない課題がいくつあるわけですので、それについては検討してまいりたいと思っております。

キャンパス化のことについては、本当に慎重にやっていかないと、子どもが酷になってしまいます。また、合意も得ていかなければならないということで、ハードルが高いわけです。

一方で、町のこれからの教育のあり方、学校のあり方というところで、辰野町を一つの学区にとか、あるいは、川島区におけるねじれ、更には、一人一人の児童生徒の多様な個性や特性に寄り添った教育のあり方、そこらへんについては、教育委員会としても、これから更に考えていかなければならないところだと思っております。

コロナで様々な社会変化が起きております。学校においても、GIGA スクール構想も一層と進んできております。ICT 機器も入っております。

そんな中で、今問われていることは、改めて、学校とは何なのか、子どもにとって学校の存在意義はどこにあるのか、ということも辰野町でも非常に問われております。学校に行かなくても勉強できるのではないかと、そういう部分も出てきております。ここらへんについては、教育委員会としても、また考えていきたいと思っておりますし、まだ町長と個々に話をしていき、詰めていかなければならない部分もたくさんございますので、これからまた、総合教育会議だけではなく、日々詰めていければと思っております。

長時間になりましたけれど、ありがとうございました。

## 6. 閉会のことば

<加藤総務課長>

以上をもちまして、第2回辰野町総合教育会議を閉会といたします。

どうも、ありがとうございました。